

## 学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断における「授業満足度」及び「授業で発表する機会」の割合向上</li> <li>・授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の割合向上</li> <li>・外部学力調査における学習習慣の定着及び学力結果の向上</li> </ul>
計画名	「輝け！川高生－生徒が学びの主役になれる授業を」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力の育成       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の(a)基礎・基本となる学力の定着ならびに「学ぶ意欲」や、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できる(b)コミュニケーション力を育成する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 生徒の主体的な学習態度を育成するため現状を把握し、(b)「考える、まとめる、発表する」等の力を高める授業を実施する。</li> </ul> </li> <li>3 生徒の自己効力感と人権意識を向上           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ウ 学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、(b)生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みの充実</li> </ol> </li> <li>4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上           <ol style="list-style-type: none"> <li>(2) (c)「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」(*)の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に改称</li> </ul> </li> <li>(4) (c)配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>
事業目標	<p><b>「生徒が学びの主役になれる授業」づくりのために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒の特徴として、入学直後は「勉強する意欲」は低くはないものの、学習習慣と学力結果を維持・向上させることが課題になっている。</li> <li>・平成27年度、学力向上チームにおいて、本校生徒には「達成感」「甘えさせない」「参加型」学習が必要であるとの取りまとめを行い、全校で共有した。</li> <li>・本校では従来から電子黒板やプロジェクターを活用する授業を行ってきたものの、台数や場所が限られており、生徒自らが十分に活用するまでには至らなかった。</li> <li>・ICT機器の全普通教室等への整備と活用を通して、「生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上」「コミュニケーション力の育成」「外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート」などを行う。</li> </ul> <p>(a) 生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上 生徒の知識定着、理解の深化及び学ぶ意欲の向上のため、教材の視覚化を行い、わかりやすくかつ内容を深めた授業を実施する。また、生徒の様子を確認しながら的確に指示することで、学習意欲を高める。</p> <p>(b) コミュニケーション力の育成 生徒が主体的に学習するとともに、自分の考えをまとめ、発表する力を育成するため、授業や総合的な学習の時間等において、調べ学習やプレゼンテーション等を実施する。</p> <p>(c) 外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート 教材の視覚化などの工夫により、外国にルーツがある生徒の学校生活や学習活動への理解を促進する。障がいのある生徒等に対して、個々に応じてきめ細かい指導を行い、学校生活や学習活動への理解を促進する。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短焦点プロジェクター（無線LAN使用可）       <ul style="list-style-type: none"> <li>* 11台設置（平成28年11月23日）、6台追加設置（平成29年1月末）、2台追加設置（平成29年3月末）</li> <li>* 平成29年度末までに全普通教室（30教室）に設置</li> <li>* マグネットスクリーン・タブレットPC（カメラ機能搭載）については学校管理費等で購入</li> </ul> </li> </ul>
取組みの 主担・実施者	<p>主担：学力向上チーム及びICT機器を活用する授業の担当者等 実施者：全教職員の7割程度の活用を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>(a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大 ・実施科目（国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・家庭・英語）・授業での活用総時間数 1962時間</p> <p>(b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用を実施 ・1年：夏休み研究発表会 クラスで発表に活用→学年全体の発表を実施 ・2年：総合的な学習の時間・HRで活用</p> <p>(b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションの実施を検討 ・1年：夏休み研究発表会の取組みの成果を次年度以後に継承（予定）</p> <p>(c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施 ・「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生徒向けに映像・図の活用、外国語←→日本語の切替えを実施 ・実施科目（世界史・国語（日本語）・保健・化学基礎）</p> <p>【取組み充実に向けた流れ】 職員研修（機器の使用 5月）及び研究授業（6月）→教科での教材開発、蓄積及び協議（9月～） →学校教育自己診断等に基づき分析・評価（1・2月）→次年度の活用方法について検討（2・3月）</p>

	<p>(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」71% (H27. 63%)  授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」2.94 (H27. 2.88 H28. 2.91)  「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.00 (H27. 2.94 H28. 2.97)</p> <p>(b) 学校教育自己診断における「授業で発表する機会がある」50% (H27. 42% H28. 46%)  ・外部学力調査(進路マップ)において  学力結果 1・2年9月結果を次年度4月に維持  気持ち・生活アンケート結果 1年9月「頑張って成績を伸ばしたい」35% (H27. 32% H28. 35%)  「自宅学習している」42% (H27. 39% H28. 42%)</p>
<p>自己評価</p>	<p>(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」62% (△) (H27. 63% H28. 61% (△))  授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」3.06 (◎)  (H27. 2.88 H28. 2.97 (◎))  「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.09 (◎) (H27. 2.94 H28. 3.01 (◎))</p> <p>(b) 学校教育自己診断における「授業で発表する機会がある」53% (◎) (H27. 42% H28. 53% (◎))  ・外部学力調査(進路マップ)において  学力結果 1・2年9月結果を次年度4月に維持  1年9月C2→2年4月C2 (◎)  2年9月C3→3年4月D1 (△)  気持ち・生活アンケート結果 1年9月「頑張って成績を伸ばしたい」  28.2% (△) (H27. 32% H28. 24% (△))  「自宅学習していない」  36.8% (○) (H27. 39% H28. 42% (△))</p> <p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断の「授業に興味・関心」「知識・技能が身に付いた」が引き続き大きく向上</li> <li>・学校教育自己診断(生徒向け)「授業で発表の機会」は昨年度大きく向上した状態を維持</li> <li>・一方、学校教育自己診断(生徒向け)の授業満足度は微増</li> <li>・外部学力調査(進路マップ)における気持ち・生活アンケート結果は「成績を伸ばしたい」が回復傾向</li> <li>* 「自宅学習していない」生徒が減少している。</li> <li>* 同一生徒が対象でないことから単純には比較できず  (1年生大学受験をめざしたガイダンス、2年生では日々課題・週末課題を実施)</li> </ul>
<p>次年度に向けて</p>	<p>(a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大  (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用の実施を拡大(公開授業や研究協議を実施)  (b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションを実施  (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施を拡大</p> <p>【取組み充実に向けた流れ】  職員研修(機器の使用. 5月)及び研究授業(6月)→教科での教材開発、蓄積及び協議(9月～)  →学校教育自己診断等に基づき分析・評価(1・2月)→次年度の活用方法について検討(1・2月)</p> <p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度末までに、全HR教室にプロジェクタを整備  →授業アンケート結果は平成29年度成果を基礎に本年度を維持(H29. 3.06)するとともに、  発表機会を増加させる+4%(H29. 53%)</li> <li>・自学習慣や学習に向き合う姿勢の確立については、キャリア教育等の学校全体の取組みと連携して推進</li> </ul>